



令和7年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



- ① 広報あいらAIRAview(6月号)
- ② 28,500部・12回
- ③ A4判・36ページ
- ④ 姶良市 秘書広報課

①広報紙 ②発行部数・年間発行回数
③判型・平均ページ数 ④担当課



講評

企画

- ・2月に宣言した「オーガニックビレッジ」について、生産現場から食卓(学校給食)まで手際よく紹介。農家の写真も表情豊か。畑での収穫の様子など様々なカットが紙面に彩りを添える。市内外に有機農業の町をPRするいい企画になった。
- ・有機農業に取り組む農家の魅力がよく伝わってくる内容だった。

文章

- ・長い記事でも、中見出しをつけて読みやすい。「ほ場」など難しい言葉を解説した点もいい。
- ・農家の声を丁寧に取材していて文章もわかりやすかった。データを基にした切り口があればもっと良かったと思う。

デザイン レイアウト

- ・有機農家のみなさんがPRポイントを紙に書いて紹介しているページがいい。顔の見える農作物を自信を持って消費者に届けたいという思いが伝わる。企画にマッチした表紙写真も表情、彩りがいい。
- ・人物写真が多く掲載されていて、人々の暮らしを身近に感じられる紙面づくりができていると思う。

その他

- ・「あいらヒストリー便」などミニ企画、コラムも興味深い。



入選

令和7年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



① 広報かのや(8月号)

② 41,300部・12回

③ A4判 32ページ

④ 鹿屋市 政策推進課

①広報紙 ②発行部数・年間発行回数

③判型・平均ページ数 ④担当課



講評

企画

- 8ページにわたり、「新規就農」を紹介。鹿屋の現状、人、受け入れ態勢、支援者や制度を手際よく紹介。最終的に消費者に安全な食を届けるところまで、イメージしやすい構成。
- 農業のまちらしい企画でよかった。産出額などのデータや就農者、消費者、自治体の支援事業など細かく取材されていてよかった。

文章

- 就農者へのインタビュー、農業の現状を伝える記事などコーナーごとに書き分けて分かりやすい。
- 昨年に続き、レベルが高い。
- メリハリのある文章で内容、分量ともにとてもよかったと思う。

デザイン レイアウト

- 各コーナーに前文をつけ、そのページで何を伝えたいか、分かりやすく工夫。
- 写真も多く使用していてよかったと思う。レイアウトも工夫がなされていた。

その他

- 戦後80年企画(7月号)も興味深く読んだ。



入選

令和7年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門

月刊「広報たるみず」
Akita Prefecture City
8月号 64頁 150円 (33.3円)
コマツ 145円

TARUMIZU

目指すは、さらりと楽しく読める自治体広報誌

8

令和7年
No.172

あの日を知る。
特集
戦後80年といふ日



- ① 広報たるみず (8月号)
 ② 6,900部・12回
 ③ A4判・48ページ (8月号は52ページ)
 ④ 垂水市 企画政策課

①広報紙 ②発行部数・年間発行回数
 ③判型・平均ページ数 ④担当課



講評

企画

- ・戦後80年企画は12ページにわたる。戦時中から戦後にかけての出来事を年表に落とし、戦跡の紹介に地図をつけたのも理解を助ける。第六垂水丸のインタビューも垂水市ならでは。青空の写真を折り紙代わりに折る読者参加型の企画もユニーク。
- ・戦後80年の企画として良かったと思う。

文
章

- ・平易で分かりやすい。優しい表現、随所に。
- ・垂水大空襲について特化した内容にしたほうが、戦争の恐怖がもっと感じられたと思う。

デ
ザ
イ
ン
レ
イ
ア
ウ
ト

- ・戦争軌跡に地図をつけるなど、分かりやすさを追求。折り紙の柄となる青空の写真もセンスがいい。人物の表情もいい。
- ・すっきりしたデザインで、読みやすい。
- ・1ページ目に戦後80年の企画があったほうが、表紙をめくった時に読みたいと思えたと思う。

そ
の
他

- ・たるみず大使コラム。
トップバッターに北原佐和子さんを持ってきたのは正解。
注目度がアップ。
楽しみなコーナーに育ちそう。



入選

令和7年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門



① 広報きりしま(8月号)

② 42,850部・22回

③ A4判 28ページ

④ 霧島市 秘書広報課

①広報紙 ②発行部数・年間発行回数

③判型・平均ページ数 ④担当課



講評

企画

- ・終戦80年企画。日本の敗戦から80年たったいまも世界で戦火がやまない。ウクライナから日本に一時身を寄せた女性のインタビューから「平和の意味」を考える導入は、他誌に比べ印象的だった。
- ・戦後80年をロシアによるウクライナ侵攻という切り口から平和の大切さを呼び掛ける企画は良かったと思う。

文章

- ・語りかけるような文章が効果的。フロントのウクライナ女性の言葉は印象的だった。花火が怖いとのエピソードもあるほどと思う。鹿児島大・佐藤教授のインタビューは、80年を経て人からモノへと戦争を語り継ぐ技法が変化していることを指摘し興味深い。
- ・若干、文章が長く感じた。取材者の主觀をもう少し簡略にまとめたほうが読みやすいと思う。
- ・フロントページはウクライナの写真と戦時下の国分の写真を対比させ、企画の意図を明確にしている。「語り継ぐ記憶、つないでいく平和」のコーナーは見出しをまたいで記事が流れるので、やや読みにくい。もう一工夫。
- ・ブルーサクヤの写真は大きさに変化をつけるなどメリハリをつけ、もっと大きく取り上げてもよかったと思う。

デザイン
レイアウト

その他

- ・9月号は大雨災害の記録と復旧支援の案内に紙幅を裂く。
- ・素早い対応。



入選

令和7年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門

市報 しぶし
Shibushi city public relations

2025
6
No.234



P.4 特集 ともに暮らしやすい地域へ

- ① 市報しぶし(6月号)
 ② 12,000部・12回
 ③ A4判 32ページ
 ④ 志布志市 総合政策課

①広報紙 ②発行部数・年間発行回数
 ③判型・平均ページ数 ④担当課



企画

文章

デザイン
レイアウト

- ・身近に増える外国人を数字とインタビューで紹介し、共生を模索する地域の取り組みを取材。SNSなどで排外的な言葉が飛び交う中、市民に「自分事」として考えてもらいたいとの狙いが成功している。
- ・移住外国人の特集は、とても読み応えがあり「ともに暮らしやすい地域へ」のメッセージもとても素晴らしい。

- ・外国人の生の声を集めたインタビューがいい。読んだ人は、"隣人"への理解を深めたのではないか。真摯な文章に好感が持てる。
- ・データを示しながら小見出しを立て文章もよくまとまっていたと思う。読みやすかった。

- ・大きなテーマ「ともに暮らしやすい地域へ」をもっと目立たせたい。2組の外国人にインタビューしているが、1ページに1組を割いたほうが読みやすい。
- ・表紙の写真はとてもよかった。記事内の写真はメリハリをつけるとともに良くなると思う。





令和7年度 鹿児島県広報コンクール

広報紙部門

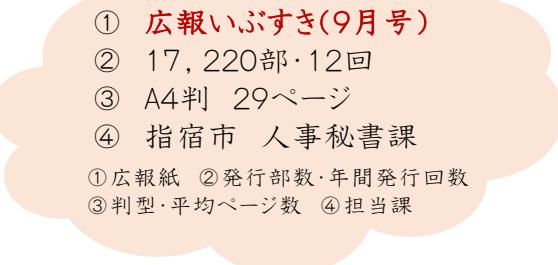


鹿児島市「令和7年度 鹿児島県広報コンクール」

いぶすき

Sep.2025
No.257

9



講評

企画

- ・「戦跡の声」というタイトルがいい。戦争を知る世代がいなくなるなか、モノに語らせ、地域の戦後80年を伝える好企画。高校生の体験者へのインタビューなど、世代間の継承も意識した構成。地域に残る戦跡など、記録にとどめることができてよかった。
- ・戦後80年の企画として素晴らしいと思った。高校生の取材インタビューもとてもよかった。

文章

- ・例えば、「焼夷弾」に「火災を起こすことを目的に作られた爆弾」の説明をつけて分かりやすい。
- ・小見出しを立て、戦時中から戦後、復興への歩みがわかりやすく戦争体験者の思いが伝わってくる内容だった。

デザイン
レイアウト

- ・地域に残る戦跡、指宿海軍航空隊の位置を示す地図がほしい。高校生のインタビューには女子生徒も加えたい。
- ・地域に残る戦跡などを写真で紹介されていて、実際に見に行きたくなりました。文章とのバランスも良かった。

その他

- ・名物コーナー？「前略、市史編さん室より」「いぶすきまるごと博物館」。毎回、興味深い話題が満載。

